

平成 30 年 1 月

(第 1 回)

京 都 府 教 育 委 員 会 会 議 録

1	開	会	平成30年 1 月22日	午後 2 時00分
	閉	会	平成30年 1 月22日	午後 2 時15分

2 出席委員等

橋 本	教育長	畑	委 員	平 塚	委 員
上 原	委 員	千	委 員		

3 欠席委員

安 藤 委 員

4 出席事務局職員

小 橋	教育次長	前 川	教育監
西 村	管理部長	細 野	指導部長
絹 谷	総務企画課長	相 馬	高校教育課担当課長
田 尻	総務企画課副課長	下 村	総務企画課副課長
野 村	総務企画課総括指導 主事	岡	総務企画課副主査
奥 村	総務企画課主事		

## 5 議事の概要

### (1) 開会

教育長が開会を宣告

### (2) 前会議録の承認

ア 12月分1回の会議録について、全出席委員異議なく、これを承認した。

### (3) 報告事項

ア 請願・陳情等の受理状況について

#### (7) 京都府京丹後市議会からの意見書について

##### 【相馬高校教育課担当課長の報告】

- 京丹後市議会において、平成29年12月21日付けで府立久美浜高等学校の存続を求める意見書が採択され、12月22日付けで教育長あてに提出された。
- 昨年11月開催の教育委員会でも報告をしたが、京丹後市内の福祉事業関係者で構成される京丹後市福祉サービス事業者協議会からも同趣旨の要望が提出されている。
- 今回の意見書が提出された経緯は、同団体から市議会に対して同趣旨の陳情書が提出をされ、市議会としてそれを採択し、提出されたものと伺っている。
- 丹後地域については、学舎制の導入や分校の統合などを進める中で、現在の学科をベースとしながら、新たな教育内容について、各学校で検討をしているところである。
- なお、意見書には福祉系列とあるが、現在の総合学科福祉系列という形にこだわるものではなく、久美浜高校において引き続き福祉に関する教育をしっかり行ってほしいという趣旨であると伺っている。
- 久美浜高校には現在、普通科系の系列に加えて、農業関係の系列と福祉関係の系列を設置している。
- 福祉系列については、毎年10名前後の生徒が希望している状況である。総合学科については、2年生から系列を選択するという形になっている。
- 京丹後市の福祉関係へは、久美浜高校から毎年2、3名の生徒が高校卒業後に就職をしている。その他、久美浜高校に限らず丹後地域の高校から専門学校や大学等に進学をする生徒は多い。
- 今回の意見書や生徒のニーズも踏まえた上で、引き続き地元京丹後市やその他関係機関とも継続的に協議、調整を行ってまいりたい。

##### 【質疑応答】

##### ○ 上原委員

福祉系列の卒業生ではない生徒が福祉関係に就職することはあるのか。また、福祉系の専門学校等に進学し、卒業した後に地元に戻ってきて福祉関係に就職する生徒の数は把握しているのか。

○ 相馬高校教育課担当課長

丹後地域の高校の卒業生のうち10名程度は、毎年丹後地域の医療福祉関係に就職をしており、その内2、3名が、久美浜高校の卒業生である。また、丹後地域から毎年100名以上の生徒が福祉系の大学や専門学校等に進学をしているが、その内何名が地元に戻ってきているかは把握できていない。地元に戻り就職する者が少ないと聞いている。

○ 上原委員

専門学校等に進学して卒業した生徒をどれだけ地元に戻ってきてもらえるかが課題である。

○ 相馬高校教育課担当課長

京丹後市を通じて、地元の福祉の事業所ともそのような話をしていく必要があると思っている。

○ 上原委員

地元には専門学校等の進学先はないのか。

○ 相馬高校教育課担当課長

北部では舞鶴市にYMCAの専門学校が一校あるのみで、それ以外だと京都市内や大阪などが中心になってくる。専門学校以外の大学になると、多方面の大学に進学をしている状況である。

○ 上原委員

地元福祉系の進学先をつくってもらいたい要望書の方が現実的な気がする。

○ 橋本教育長

舞鶴にYMCAをつくるときに、宮津、舞鶴、福知山だったと思うが、どこにどのような機能を持っていくかという協議をされて、その結果、舞鶴にそういう機関を設けることになったのだと思う。

これに限らず卒業して地元を離れていくという傾向が強いので、もっと地元の事を学んでもらう等、教育の力でどうしていくかが課題だと認識している。

(4) 閉会

教育長が閉会を宣告